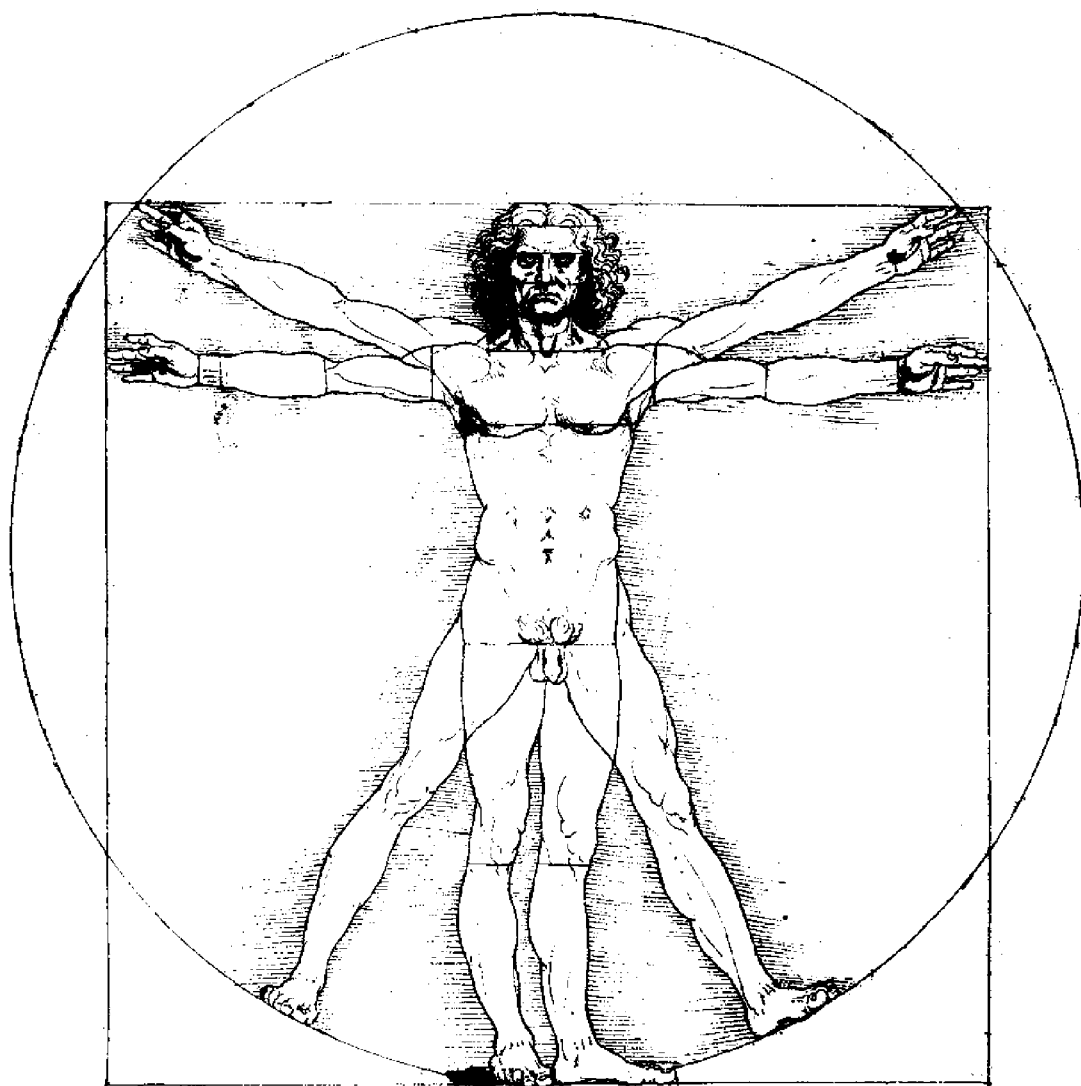


ISHIN

医心

隔月刊・無料配布

2025.11
No. 108



5つの「S」で
新たな挑戦！

金沢医科大学 学長

宮澤 克人

全日本病院協会会長
就任インタビュー

公益社団法人 全日本病院協会 会長

神野 正博

脳と神経の
トータルマネジメントをめざす

福井大学医学部附属病院 脳神経内科 教授

西山 康裕

CONTENTS



04 5つの「S」で 新たな挑戦！

金沢医科大学 学長

宮澤 克人



12 全日本病院協会会長 就任インタビュー

公益社団法人 全日本病院協会 会長

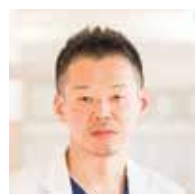
神野 正博



20 脳と神経の トータルマネジメントをめざす

福井大学医学部附属病院 脳神経内科 教授

西山 康裕



27 ISHIN column vol.2 奇跡的に生まれ変わった野村病院

医療法人社団尽誠会 理事長
野村病院グループ CEO

野村 祐介



29 ファイネスの お聞かせください、ドクター！ DOCTOR'S VOICE

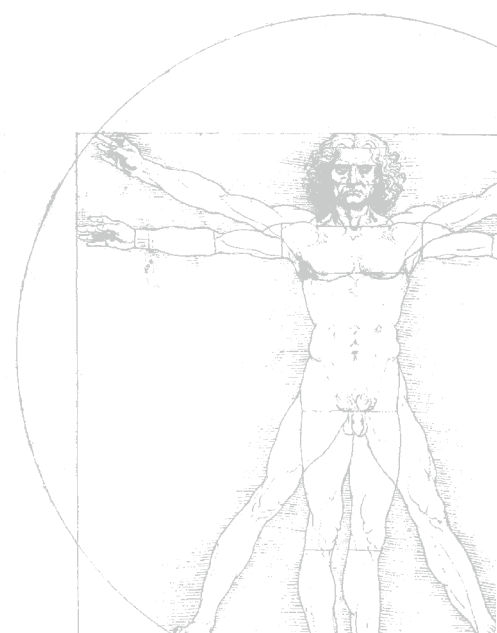
いもと耳鼻咽喉科クリニック 院長

意元 義政

STAFF

Editor 坂口俊克
Writer 上乗繁能／大廣 涼
Photographer 藤森祐治
Designer 吉田真人／西村恭子

発行／NPO法人 学産プロジェクト
〒920-0213
石川県金沢市大河南町東55番3号
TEL 076-203-6613
e-mail: info@project-ishin.net



「建物の主治医としての自覚」 —これが、みづほのこだわりです。

のいちメディカルクリニック（CT棟増築）様



外観



受付・待合室



CT室



診察室



処置室



CT操作室

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に
医療経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での
提案営業スタイルを確立し、
病医院や福祉施設の開業を支援しています。
これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、
土地探し、施設提案、事業運営までを
専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。
多くのドクターが抱かれている開業についての
不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと
進んでいただけるお手伝いができればと考えております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和7年12月13日(土)・14日(日)
10:00～17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。

本造建築の新しい選択肢、「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合梁「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

新しい建設サービスの展開
mizuho 新しい建設サービスの展開
みづほ工業株式会社

本社／〒921-8064 金沢市八日市丁1362番地 TEL. 076-240-7010(代) ホームページ／<https://www.mizuho-co.com>

建築コストの削減
高い耐震性と耐久性
設計自由度の高さ

建築工期の短縮
建物の軽量化
大空間の木造建築



パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

医療施設

クリニック

ドクター

薬剤師

看護師

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

栄養士

介護士

ソーシャルワーカー

ケアマネジャー

民生委員

地域の方々

在宅高齢者施設

民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータ・センター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL (076) 268-8315 (代) FAX (076) 268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町ハ6番地1
TEL (076) 268-8311 (大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■支社 / 東京・名古屋
■支店 / 大阪
■営業所 / 富山・福井

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY

金沢医科大学 学長 宮澤 克人

5つの「S」で新たな挑戦！

AIの活用で劇的变化

— 令和7年9月に学長に再選されました。率直な感想と、学長2期目にあたったの方針などについてお聞かせください。

再び学長を拝命し、大変身に余る光栄であると同時に、改めてその責任の重さを痛感しています。

私は学長就任以来、5つの「S」を柱に、本学の持続的な発展をめざしてきました。

Spirit＝良医になるという志、Science＝教育と研究の両輪、Skill＝シミュレーション教育と実地臨床での熟達、Speed＝能登半島地震でも示された迅速な判断力、Safety＝医療安全と心身の安全確保です。

この理念は、私の中で揺るぎないものであり、再任にあたっても真っ先に掲げました。5つのSは、英語版ホームページでも紹介しており、海外留学時代の上司や、一緒にラボで働いた仲間たちから「なかなかいいね」と励ましの言葉をいただいています。教育、研究、診療、社会貢献という本学の使命を、さらに高い水準で実現していきたいと思っています。

— 大学運営にあたって今後、大きく変わる点とどんなことが予想されますか？

1期目との大きな違いは、AIやDXが社会生活の中に入ってきていることです。本学では何年も前から医療DXに取り組んでいて、電子カルテの導入や画像のデジタル化により、診断や各種ツールへの活用を進めています。なかでも学長に就任してからの3年間で劇的に変わったのは、ChatGPTをはじめとする生成AIが、教育現場に入り込んできたことです。

本学では10年ほど前から、教科書や、紙の本を持ち歩く学生を目にしなくなりました。教材の多くをPDF化して、iPadなどのタブレット端末に取り込み、授業や実習に臨むスタイルがすでに一般化しています。AIは、今後も教育的な構造をガラリと変えるのではないかと思います。教育はもとより、研究、診療のあらゆる側面を革新する可能性を秘めていると感じています。

研究力の向上をめざす

— AIの活用によって学びや教育、研

DOCTOR'S
INSIGHTS

究、診療も質的に変わっていくのではないかと？

そう思います。ただ、私自身はAI推進派で新しいことにチャレンジすることは大歓迎ですが、気をつけたいといけなところも多々あると思っています。とくに若い人たちは、ネットやSNSに見られるように、自分の好きなもの、気に入ったものに走りやすい傾向があります。同じように、AIやChatGPTに頼りすぎると、どうしても自分の好きなことや、いいところしか見えなくなるなど、知識や情報が偏ってしまいがちです。

たとえば良いかわかりませんが、レストランに行つて、好きなメニューしかオーダーしないのと似ています。気に入ったものばかり食べていると栄養が偏ってしまい、体に変調をきたさないとも限りません。栄養バランスを考えたメニューが体にいいのと同じで、なるべく情報が偏らないように、変化にどうアジャストしていくかも重要になってくると感じています。

―学長として、とくに優先的に取り組んでいきたいのはどのようなことですか？

メディカルリサーチセンターはまさに研究拠点です。世界に羽ばたける研究や研究者の拠点になるように力を入れていきたいと考えています。

現場感覚を大切にする

―いまも手術や外来を担当されるそうですが、診療面についてはいかがでしょうか？

教育、研究に続く三つ目として、診療の充実にも力を注ぎたいと思っています。金沢医科大学病院は、特定機能病院として高度先進医療を担う一方、地域の基幹病院として住民のみなさんの健康を守る存在でもあります。いま、大学病院は全国的に厳しい経営状況にあります。患者中心の医療を守るためにも医療安全の徹底や地域医療との連携をさらに強化し、持続可能な診療体制を築くことは必須だと思っています。

外来や手術場に立つのは私自身、医師として現場感覚を大切にしたいと思っています。私の専門は、泌尿器科全般と尿路結石症です。泌尿器科の分野では、ロボットなどを使った低侵襲手術やAIを用いた診断、予測モデルの応用が



一番は、やはり教育です。医学部においては、建学の精神である「良医を育てる」を体現するために、すべての学生が6年間で卒業し、医師国家試験に合格できる教育体制を確立したいと思っています。これは看護学部においても同様です。看護師、保健師、助産師国家試験において高い合格率を維持しながら、卒業生が社会で活躍できるようにしっかりと支援したいと思っています。

二つ目は研究の強化です。本学は、2022年に創立50周年を迎えましたが、次の半世紀をどう築くかは、これまでの延長線ではなく、新たな挑戦の連続であるべきだと考えています。

本学の高島茂樹理事長は「50周年までは診療と教育で手一杯だった。今後は、もっと研究に力を入れていく」と宣言され、新たな挑戦に舵を切りました。その象徴ともいえるのが、2024年夏に竣工した「メディカルリサーチセンター」です。基礎研究を支える実験動物の飼育管理体制を整備するとともに、基礎と臨床をつなぐ橋渡し研究や、国際共同研究を推進し、若手研究者が挑戦できる環境を整えています。

医療DXやAIの活用も挑戦の象徴ですが、医科大学の強みを活かす意味でも、

進んでいて、内視鏡手術やレーザー技術の進歩により、患者さんの体への負担も飛躍的に改善されています。

一方で、画像や臨床データをAIで解析し、術後合併症や治療成績を予測する研究も進んでいます。今後は、臨床現場とAI技術が密接に結びつき、より安全で効率的な治療が可能になると期待されています。

こうした中で、私自身が現場感覚から離れていては、とても適正な判断は下せなくなりますし、スピードにもついていけなくなります。それゆえ、会議や業務の合間を縫って手術も行いますし、極力、外来にも顔を出すようにしています。

―ご専門分野では、どのような治療が主流なのでしょうか？

サブスペシャリティとして前立腺がんの治療にも長年取り組んできました。これまでロボット支援手術（ダビンチ）で約300例、小線源治療（ブラキセラピー）で約400例を執刀してきましたが、この分野でもやはり低侵襲かつ高精度な治療が進んでいます。加えて、手術支援ロボットの新機種開発も進んでいます。口

ポットアームの動きなどの手術データをAIで詳細に解析し、術者にフィードバックするシステムや、先ほど紹介した術後合併症や治療成績を予測するシステムが主流になりつつあります。日本発のデータを世界に向けて発信することも視野に入れているところ です。

―若手医師を育てるという面では、泌尿器科の領域はどんな現状にありますか？

泌尿器科学会の会員数は飛躍的に増えています。高齢化で泌尿器関連の疾患は多いですし、ロボット手術などが保険適用になっていることもあって、若手医師の関心を集めていると思います。

金沢医科大学病院でもロボット支援手術や内視鏡手術がメインになってきているので、若手医師にとってトレーニングしやすい環境が整っています。機器の技術革新が進んでいて、同じロボットでも従来機に比べてデータ解析能力が格段に優れていますから、指導医は機械やAIをうまく利用しながら効率的な教育ができます。そういうトレーニングや教育を含めて、若手医師にとって魅力や可能性が広がっている分野だと考えています。

人としての「徳」を積む

―金沢医科大学は、自治体や企業、大学との連携にも積極的に取り組んでいますね？

地域との協働、連携は、本学的重要施策の一つです。本学は地理的に能登に近いこともあって2024年1月の能登半島地震や同年9月の能登豪雨災害では、医療チームを派遣し、被災地の医療支援に尽力しました。能登半島地震では県内で最も多くの被災患者を受け入れています。

連携の基本は「地域と共に歩む」ことだと考えています。今後も災害医療支援を含め、地域と共に歩む姿勢に変わりはありません。

企業との連携では目下、医療機器や新しい診断技術などの共同開発に取り組んでいます。また近隣大学とも国の支援事業などに採択され、連携を進めているほか、「医工連携」による新しい医療技術の創出などで実績を上げており、大いに期待しているところです。

―少子高齢化や人口減少と共に、医療人材の不足が懸念されています。医科系大

学としてどのように対応しているとお考えですか？

医科大学として、専門医やスペシャリストを養成していくのは重要な使命であり、役割だと思っています。病院診療はもちろん、地域医療を支える医療人材の確保、育成も、私たち地方の大学にとって大きなテーマです。地域医療を支えていくには、G P (General practitioner : 総合診療医) や家庭医、地域のかかりつけ医が不可欠になってきています。

そうした時代を見据えて、本学では「総合内科学」講座や、病院内に「総合内科」を開設するなど、教育体系的に養成しようとして取り組んできました。ただ、地方の大学でG P や家庭医を養成するための人材確保は、なかなか容易ではありません。今後もG P など、より多くの多様な人材を本学から輩出できるよう、学生や若手医師に対する教育プログラムの充実を図りながら、人材の確保と教育体制の整備を一層強化していきたいと考えています。

―これからの若手医師や医学生に向けて、何かメッセージがあればお願いします。

私は「医療有徳」、「治癒有徳」という

言葉を座右の銘にしています。学生野球の父で「一球入魂」の名言を残した飛田穂洲（とびたすいしゅう）先生をご存知でしょうか。飛田先生は、学生野球のスターで、後に読売巨人軍の選手、監督として活躍した長嶋茂雄氏を育てた立教大学の名監督・砂押邦信氏に「勝利有徳」の言葉を贈りました。

医療有徳、治癒有徳は、その言葉に由来するものです。私は、患者さんが病気に克つには人の「徳」が必要ではないかと思っています。病院が良質な医療を提供するのは当たり前のことです。患者さんが求めるのは、単なる医療ではなく、その先にあるもの。医療の知識や技術があっても、医師が人として「徳」を究めていなければ、患者さんの真の要求に応じることができないのではないかと私はそう思っています。

「患者さんに『この病院でよかった』と笑顔で退院していただける病院の一員になれるように精進しなさい」

亡き父が私にくれた言葉ですが、いまも励みになっています。これからの人たちは、患者さんの気持ちに寄り添い、人としての「徳」を積んでほしいと思っています。



Profile

宮澤 克人（みやざわ かつひと）

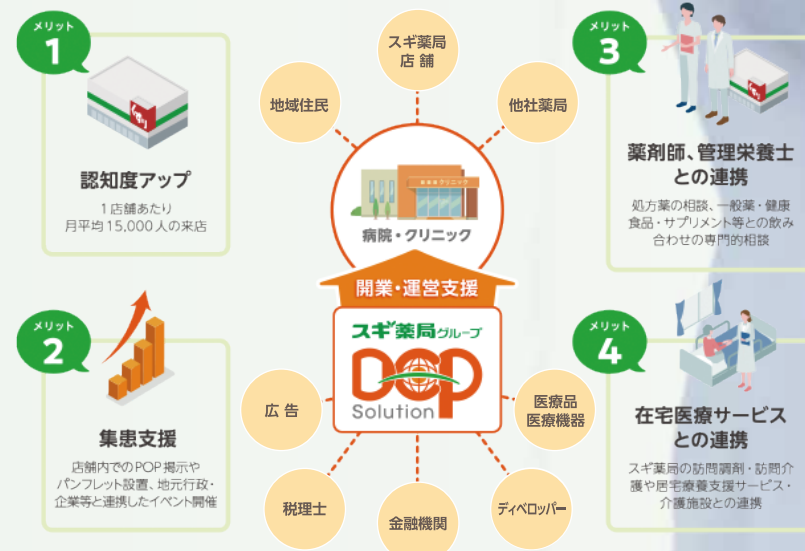
金沢医科大学 学長

- 1984年 金沢医科大学医学部卒業
- 1989年 金沢医科大学大学院医学研究科博士課程修了
金沢医科大学泌尿器科学 助手
- 1994年 金沢医科大学泌尿器科学 講師
- 1999年 Flinders Medical Centre (豪州) 留学
- 2006年 金沢医科大学泌尿器科学 助教授
- 2011年 金沢医科大学泌尿器科学 特任教授
- 2013年 金沢医科大学泌尿器科学 教授(講座主任)
- 2016年 金沢医科大学 学長補佐
- 2019年 金沢医科大学 副学長
- 2021年 金沢医科大学 医学部長
- 2022年 金沢医科大学 学長(現在に至る)
- 2025年 金沢医科大学 名誉教授

ドラッグストア併設で 理想の開業を！

DCPソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
開業までのスケジュール作成
開業地の選定、診療圏分析
事業計画の策定
融資の打診及び交渉
設計、内装業者紹介及びアドバイス
医療機器選定
税理士、公認会計士の紹介
広告相談
従業員募集、採用、教育の補助
開設手続き
開業後の経営支援、拡大展開
継承支援



DCPソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。



0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

拠点

- 関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号
ヒルトップ神田ビル
- 中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
- 関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号
新大阪第5ドビル13階
- 北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

神野 正博

今、全国の大学病院や国公立病院の約7割近くが経営赤字、地域の病院は、存続の危機にあるという。約2,560の病院が加盟する全日本病院協会の新会長に今年6月、石川県七尾市の恵寿総合病院・神野正博理事長が就任した。新会長の使命と役割などについてインタビューした。

― 国の補助金に助けられた ―

能登半島地震の被災者でありながら、医療をあきらめずいち早く支援や復旧に動いたこと、それが大きかったんじゃないかと思っています。震源地からほど近い石川県七尾市にある私たち恵寿総合病院の本館建物が、無傷で生き残った。能登の病院で無傷だったのはおそらく当院だけだと思います。その体験や経験を活かしているんな提案、提言につなげてほしい。地方の田舎にある病院の理事長が選ばれたのは、おそらくそういう背景があったのではないかと想像しています。

全日本病院協会の会長に選出された理由の一端を、神野正博会長はそう振り返る。自らが経営する社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院は、東日本大震災を教訓に、2013年、救急や手術などの機能を集約した免震構造の新病院に建て替えられた。奇しくもその建物の本館が、マグニチュード7.6、最大震度7の能登半島地震に耐え抜き、被災者の医療支援に大きく貢献した。病院建て替えの際、神野会長は「医療施設近代化施設整備事業」(※注) という国からの補助金が大きな助けになったと力説する。その経緯

を含めて、新会長のミッションについて語りはじめた。

会長としての私の役割は、大きく4つあります。その一つ目は、病院の近代化施設整備などに伴う補助金の復活です。私は、2013年に恵寿総合病院を建て替える際、国の補助金に大変助けられました。

建設にあたっては、国と県と当事者で費用をそれぞれ3分の1ずつ負担する形式でした。いろんな経緯があつて結局、3分の2を私たちが負担し、国の補助3分の1で建設したと思います。全体で億単位の建設費でしたから、それでも国の補助は大変ありがたかった。

その後、補助金の見直しなどで制度の名称や枠組みが変わり、現在はより包括的な補助金や交付金に統合、再編され、単独の補助事業としては廃止されていると思います。この近代化整備の資金を、なんとか復活してほしいと要望しています。

いま、地震や豪雨、洪水、台風などの自然災害が全国各地で頻発しています。南海トラフ地震など、大きな災害がいつ起きるかもわかりません。そうした災害への備えとして、施設や建物の強靱化は避けて通れない時代になっています。





災害時、私たちの命を守るのは医療です。いろんな条件や枠組みの違いはあるにせよ、世の中に必要とされる医療機関を残すことは重要です。国は、厳しい財政の中でも公立病院や自治体病院には、年間9000億円までいろんな補助金を出しています。

しかし民間病院の中には、診療報酬がなかなか上がらない中、物価や建築資材の高騰などで、強靱化にかかる費用が重くのしかかっているところは少なくありません。老朽化した建物や施設を一刻も早く建て替えたくても、踏みきれないのです。

もしいま、大きな災害が起きたらどうなるか。できればそうなる前に、強靱化したいと誰しも思うでしょう。近代化施設の整備に対する補助があれば、大きな助けになります。被災病院の理事長として、ぜひとも復活してほしいと訴えたいと思っています。

※注 医療施設近代化施設整備事業は、2000年代初頭に国による補助金の見直しで、より包括的な「医療施設等施設整備費補助金」や「医療提供体制施設整備交付金」に統合・再編され、単独の補助事業としては廃止されている。ただし、補助制度は都道府県レベルで募集しているところもある。

神野会長の主張の背景には、医療機関の収入源である診療報酬が「上がらない」事情がある。周知のように、診療報酬は国の予算編成の中で改定率を決定し、厚生労働大臣の諮問機関である中央社会保険医療協議会（中医協）の審議を経て、最終的に厚生労働大臣が決定する。通常2年に1回見直しが行われるが、ここ数年、実質的にほとんど据え置かれているのが現状だ。

診療報酬は、いつてみれば公定価格です。病院が自由に価格を上げたり、下げたりすることはできません。しかし病院の収入源である診療報酬が上がらず、経費ばかりが膨らむと、必然的に経営は厳しくなります。

たとえば町の八百屋さんは、仮に大根を例に取ると、1本の価格から市場で仕入れた原価や運搬費、人件費などのコストを引いて、何本売れたかで大根のトータルの利益を算出します。他の野菜も同様に、設定価格から仕入れや運搬費などの経費を引き、売れた数で利益を弾き出しています。

ただし、医療と大きく違うのは、八百屋さんは原価が高くなったら自分達で価格を調整できます。いま、物価高で材料

— 人員基準を緩めてほしい —

二つ目は、医療経済の話です。診療報酬にかかわる施設の人員基準を緩めてほしいと要望しています。たとえばいま、病院は薬や材料を共同購入したり、DX化で業務を効率化したり、人件費を減らすためにロボットを導入したりさまざまな取り組みを行って生産性の向上に努めています。

ところが、人件費や診療報酬に関わる部分で、病院には人員基準があります。いわゆる7対1看護とか、10対1看護とか、施設によってその基準で人員を配置していないと診療報酬がつかないわけです。いま、医師や看護師などの医療人材が不足しています。どこの病院も、人手が足りない部分を自助努力で補い、業務を効率化し、生産性の向上を図っています。

しかし、うちの病院は人を減らし、ロボットを導入して7対1を10対1看護にしたといっても、現行では人員が基準に達していなければ診療報酬がつかないのです。国の人員基準が緩和、または変わらない限り、努力は報われない。それっておかしくないですか？ だから、人員基準を緩めてほしいと訴えています。

費や運搬費やいろんなものが上がっていますが、その負担分を価格に反映しようと思えば可能なのです。

医療は、それができません。診療報酬は実質的に据え置かれて、医薬品や材料費や光熱費などの物価は上がっているのが経費部分はどんどん膨らみます。物価はここ4年間で毎年3%ずつ、約12%も上昇しています。診療報酬は、4年間でみても1%上がっているかどうかです。

— 未来予測がつかない不安 —

国全体で見れば、医療費は増えていきます。2021年度の統計ですが、国民医療費は約45兆円でGDPに占める割合は約8.2%。毎年、国民医療費が伸びているのだから病院が儲かっているように思われるかもしれませんが、でも高齢化と医療の進歩による割合が多く、実質的な利益増にはつながっていません。

この先、少子化や人口減少が進み、働き手も減っていきます。病院はロボット化やDX化、生成AIなどを進めて、少ない人数で回していくようにしないといけない時代に入っています。

それゆえ、三つ目のミッションとして、なんとしても診療報酬のアップを

実現させたいのです。前回の改訂では、わずか0.8%の上昇だったと思います。診療報酬に関しては、日本医師会や他の団体も概ね足並みは揃っていますが、病院団体として私たちは10%以上のアップを要求したいと考えています。

来春の診療報酬改定を待っていただけないほど経営に窮している赤字病院が増えています。その救済策として、短期的に補正予算がつくかもしれません。しかし、よくよく考えると2年に一度、診療報酬が上がったり下がったりして予測がつかない状態では正直、将来設計が見通せません。

金融機関は、将来予測が立たない業界にお金を貸してくれるでしょうか。人のいのちと健康を守る病院が、5年後、10年後どうなっていくかわからない。そんな状態では、病院だけではなく地域全体が不安になります。

そうならないためにも、私は物価賃金スライド制とか、GDPスライド制にするとか、何か一定の基準または法則に則った診療報酬にするべきではないかと考えます。

「病院から」健康へ

団塊世代が後期高齢者となる2025年を機に、日本の高齢者はピークを迎え、一方で少子化や人口減少により医療・介護を支える現役世代が、今後激減していくと考えられている。2040年には、医療・介護人材の不足から全国で約40万人の医療難民や介護難民が増加するとの予測もある。医師や看護師はじめ、介護人材の確保、育成を含めてこの先、医療をどう改革、再生していくのか。

これまでお話ししてきたのは、いつてみれば国の政策について、全日本病院協会としてどうするかという話です。医療全体を見渡せば、これから先のことにについて、私たち自身が考えていかないとけない問題、課題も多くあります。

四つ目は、そうした将来に向けた政策提言も重要なミッションになります。いま、全日本病院協会では、50代ぐらいの若手を中心に、2040年の病院はどうなるか、2060年の医療はどうなっているかなどについて話あっています。その頃には、私たちの世代はもうない

いかもしれません。ということもあって、会長としてあえて「病院をぶっ壊す」と提案しています。

単純に、病院を潰すという意味ではなく、これからの医療は、人口が減少し、患者さんが徐々に少なくなっていくます。そこでは「病」を治すだけではなく、支え、予防や健康や体を維持していくことも重要になっていきます。つまり、健康ビジネスや生活の支援も担う場所になるかもしれない。

そういうイメージから、10年後にはもはや「病」院ではなくなって、むしろ健康を維持するための「健」院になっていくべきではないかというのが、趣旨です。

病院で治療が終わった人は、日常生活に戻ります。そこからは、いかに健康を維持し、病気になるないように自分を保っていくか。介護が必要な場合は、病院からこういうサービスが提供できます、体調が悪くなったらすぐに病院で診療できますという補償をする。要するに、かつての病院は、医療と生活支援を一緒に引き受ける場所へと変化または進化していいのではないかと考えています。

全日本病院協会の会員は、ほとんどが

「治し支える病院」です。2040年の病院の在り方としては、そういうスタイルが日常的になっているかもしれない。そうした長期の視野に立った政策提言を積極的に行い、病院再生の道筋につなげていきたいと考えています。



Profile

神野 正博 (かんの まさひろ)

公益社団法人 全日本病院協会 会長
社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 理事長

1980年 日本医科大学卒
1986年 金沢大学大学院医学専攻科卒(医学博士) 金沢大学第2外科助手
1992年 恵寿総合病院外科科長
1993年 同病院長(2008年退任)
1995年 特定医療法人財団董仙会(2008年11月より社会医療法人財団に改称、2014年創立80周年)理事長
2011年 社会福祉法人徳充会理事長併任

専門は消化器外科。全日本病院協会会長、NPO法人VHJ機構理事長、日本社会医療法人協議会副会長、石川県病院協会副会長、七尾商工会議所副会頭ほか。現在、厚生労働省において社会保障審議会医療部会委員、医師養成過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会委員を務める。



購入から15年以内で
このような
医療機器
はございませんか?

日本で使用されなくなった内視鏡・エコー・CR読取り装置・眼科機器・CT/MRI装置は、
多くの発展途上国で必要とされています。



弊社が買取りいたします。
各社リース更新・満了・返却機器もご相談ください。

らくらく買取



QRコードを
読み込んでください

Masue Accounting Office

医療の未来を支えるパートナーとして
関与先様の喜びを大切にします



事業内容

- 法人及び個人事業主に対する税務申告、会計監査
- 予実管理
- 相続税申告及び相続相談
- 事業承継及び組織再編の組成

増江会計

〒921-8105 石川県金沢市平和町2丁目28番78号

TEL.076-214-6000

<https://fktlab.xsrv.jp/>

YASUHIRO NISHIYAMA

福井大学医学部附属病院 脳神経内科

西山 康裕

福井大学医学部附属病院の脳神経内科は、2025年1月、新たな診療科としての一步を踏みだした。神経・脳血管障害が専門の西山康裕氏を初代教授に迎え、急性期から回復期、リハビリ、日常生活に至るまでのトータルマネジメントをめざしている。

神経救急を体感する

脳神経内科は、非常に幅広い診療科です。急性期の代表的な疾患である脳血管障害をはじめ、高齢化社会を迎えてますます増加する認知症やパーキンソン病から自己免疫性疾患、筋疾患、筋萎縮性側索硬化症（ALS）に加え、さらに頭痛やめまいなどの一般的な疾患まで、とにかく広範囲にわたります。

それだけに、私は脳神経内科医が、急性期の治療だけで終わるのではなく、なぜそうなったのか、病気を引き起こす原因は何か、どうしたら原因解明につながるかなどを含めて対処していくべきだと考えています。

たとえば、脳卒中で入院した患者さんには高血圧や脂質異常、糖尿病などの病気を合併している人が少なくありません。脳卒中との因果関係や、合併症の管理も含めてトータルでマネジメントしていくことで、患者さんの状態をより正確に把握することにつながります。できれば、若い医局員にはそういう脳神経内科医をめざしてほしいと思っています。

若い時はエネルギーや体力があります。



興味を持つ対象や選択肢も大きく広がっています。そういう時期にこそ、私は神経救急といわれる脳血管障害とか、てんかんとか、髄膜炎とか、要するに急性疾患や救急疾患的な現場を数多く経験して、患者さんが「良くなっていく」ことを自分の目で確かめることが、後に必ず生かされると思っています。

急性期の病気が良くなれば患者さんは喜びます。その喜びを体感すると、若い人たちも医師になってよかったときと思えるはずです。その瞬間に立ち会い、やりがいを感じながら脳と神経のそれぞれの専門に向き合っていく。そうなるためにも、まずは救急や急性期の疾患を見て、体験してほしいというのが率直な思いです。

脳神経内科の面白さは、診察の組み立てや診断を導き出すプロセスにあると思っています。大学病院ならではの高度な検査に加えて、PETなどの画像診断も活用しながら、疾患の原因やメカニズムを解析し、より確かな診断につなげていく。

高齢化の進展に伴い、脳神経内科の患者さんは年々増え続けています。だから

て経験するような珍しい症例にも出くわすことも稀ではありません。

私としてはいま、患者さんが増えつつある脳血管障害や変性疾患、末梢神経障害、免疫性の疾患などにとくに力を入れたいと思っています。私たちの教室には、神経難病先端化学講座という寄附講座を開設して、ALS（筋萎縮性側索硬化症）の診断や治療法の開発に、心を燃やしている仲間もいます。専門医を取得したあとは、ぜひ自分が本気で時間を注ぎたい「夢中になれるフィールド」を見つけてほしいと思います。また、福井大学医学部にいらしたら、どんな疾患でも対応できるということを、知っていただきたいと思っています。

そのために毎週水曜日に、全体のカンファレンスを行って、症例ごとに原因などを追求しています。また、ほぼ毎週のように担当医が実際に医局員や学生の前で神経診察を行います。

神経診察の良さは、古典的な道具を用いて得られる情報からさまざまなことがわかることです。一人の医師が診察した結果が、必ずしも正解とは限りません。むしろ評価については、みんなでディス



こそ幅広い神経疾患にしっかりと向き合い、研究や留学などを通して専門性を深めていく必要があると思っています。

神経難病の病態解明に挑む

西山教授は、前任地（日本医科大学）で、日本の脳梗塞の権威でレジェンドともいわれる木村和美教授に師事、7年間にわたり脳梗塞や脳出血の診療や研究とともにやってきた。その中で、最適な治療薬や治療法によって患者の「転帰」が変わるのを何度も目にしてきたという。患者のQOLが向上し、人生が大きく変わる姿を見るにつけ、原因追求の大切さや脳卒中、脳血管障害を学ぶ意義について深く考えるようになったとも。その西山教授が、今後力を注いでいきたいのはどんな分野なのか。

脳卒中や脳血管障害の原因追求で培った強みを活かし、福井大学医学部附属病院では脳卒中以外の疾患にも目を向けていきたいと思っています。脳神経の領域には、神経難病といわれる疾患がたくさんあります。私自身が、福井に来て初め

カッションすることによって、その疾患の正解に辿り着ける可能性が広がることもあります。

たとえば、脳血管障害は急性期の疾患なので素早い対応が必要です。30分後には状況が変わる場合があるので、じっくり診察するのは難しい。でも徐々に進行していく疾患については、メンバーみんなでしっかり検討することができます。さらに、このことは、主治医が自らの診察技術の向上を感じ、周囲もそれを認めることとなり、医局員どうしの刺激にもなります。

ブレインハートチームで連携

脳神経内科では他の診療科との連携も密接に行われている。とくに綿密な連携が必要な疾患とされているのが、脳卒中だ。西山教授は、急性期の治療はもとより、回復期やリハビリ、在宅に戻ってからの生活に至るまで、中長期的な視野に立ち適切な医療を提供するための多職種連携の大切さも訴える。



Profile

西山 康裕（にしやま やすひろ）

福井大学医学部附属病院 脳神経内科 教授

1996年 日本医科大学 医学部 卒業
日本医科大学第二内科 入局
1998年 日本医科大学大学院 入学
1999年 慶應義塾大学医学部微生物免疫学教室 訪問研究生
(腸管免疫の研究)
2002年 日本医科大学大学院 修了
2004年 塩田病院脳卒中センター 神経内科医長
2007年 日本医科大学付属病院 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門 助手
2010年 米国スタンフォード大学 脳神経外科 訪問研究生
(脳梗塞後の免疫担当細胞の研究)
2013年 日本医科大学付属病院 神経・脳血管内科 病院講師
2016年 東京都立多摩総合医療センター 神経・脳血管内科 医長
2017年 日本医科大学付属病院 脳神経内科 准教授
2025年 福井大学医学部 脳神経内科 主任教授



脳卒中の原因の一つに、心原性脳塞栓症があります。脳塞栓症は、脳の疾患ですが、心臓に関係しているケースが多くあります。それゆえ心臓と脳卒中の連携がいま、注目されていて、私たちは循環器内科と「ブレインハートチーム」をつくってお互いに意見交換をしています。チームがあることで、同じ脳卒中でも私たちは脳神経内科で「もしかしたら心臓になんらかの原因があるのではないか」と思ったときに、相談しやすいわけです。循環器の先生方も「珍しい症例かもしれないね」と、お互いディスカッションが広がります。

腸と脳の相関を研究

脳卒中は、急性期だけではなく回復期、リハビリ、日常生活に戻った後のケアに至るまでさまざまな医療従事者が治療に関わっています。それゆえ院内の連携はもちろんですが、脳卒中治療に携わる医療従事者が職種の枠を超えて連携を図る必要があります。福井県内では、2025年9月に日本

たこともあり、この分野に非常に高い関心を持っておりま。現在はモデルマウスを用いて、脳梗塞が腸内細菌にどのような影響があるのかを日本医科大学と共同で研究を進めております。まだまだやることがたくさんあります。同様に、医局の若手には、脳梗塞と炎症・免疫の関連について研究するとか、それぞれ興味のある分野で、研究を深めていってほしい。優秀な医局員が揃っている、脳神経内科の専門分野のリーダーとして活躍する日を楽しみにしております。また、そのためにはサポートを惜しむことなく、力を注いでまいります。



奇跡的に生まれ変わった野村病院

～危機から脱却し慢性期医療の新たなモデルを築く軌跡～



医療法人社団尽誠会 理事長
野村病院グループ CEO

野村 祐介

地域と医療従事者に選ばれる挑戦

全国の病院が経営に苦しむ中、かつては野村病院も極めて厳しい状況にあったのは間違いない。しかし、3つのステップからなる改革を進めた結果、病院は奇跡的とも言える再生を遂げた。現在では「地域から、そして医療従事者に選ばれる病院」として、専門誌などから注目されるようになったのだ。本連載は当院が危機から脱却し、選ばれる病院へと生まれ変わるまでの軌跡を振り返るものである。医療現場と経営の両面から見た「選ばれる病院」の条件と、今後の医療経営への示唆について考察する。

■ステップ2（2016年）
「慢性期病院として生き残る病院」へ

一定の改善が見られ、当院は平均的な病院水準には達したものの、その実態は「下」から「中下」へ移行したに過ぎず、依然としていくつもの課題が残っていた。その一つが、2016年4月の診療報酬改定による要件の追加だ。療養病棟入院料2において医療区分2・3の患者割合は、50%以上が新たに求められるようになったのである。当時、当院の区分2・3に関する患者割合は40%前後。50%以上という基準は到達困難な高い山のように感じられた。

現状分析を行う中で、職員アンケートや看護部経由で率直な意見が多く寄せられた。例えば、「お金中心で患者に寄り添っていない」「人手が少ないから1病棟閉鎖すればよい」「医師としてのポリシーがある」などの声である。これらは当時抱えていた問題点と、現場の意識の乖離を示すものだったと言えるだろう。この課題を解決するには、病院を取り巻く社会的・制度的背景への理解不足の解消が不可欠だと考え、経営の危機を回避すべく、静観から改

革へと大きく舵を切る必要性を認識した。その一環として、職員に対して診療報酬改定の内容と当院が基準未達である現状を伝え、今後は生き残りのために「区分2・3」患者の受け入れ拡大が必須である旨を通知した。具体的には中心静脈栄養管理患者だけでなく、新たに人工呼吸器患者の受け入れも開始。また、将来的に20...1の入院料1への移行が重要だと考え、「区分2・3」の確保と看護師数の増員を同時に進める方針を明示した。もちろん、通知しただけで組織が簡単に変化することとは難しい。2016年9月末の経過措置終了時点で、「区分2・3」割合は全病棟で50%に達することはなかった。たとえすぐに改善は見られなかったとしても、病院存続のためには意識改革を停滞させるわけにはいかない。すぐさまギアを上げ、翌月から全職員を対象とした月例会集会をスタートさせた。病院の方向性や医療政策の動向をまとめ、プレゼンテーションする取り組みを続けたのである。

一例を紹介しよう。1回目の集会では、超少子高齢化による社会保障費の増大、税収減少の予測、2025年問題を背景とした国の医療・介護政策の方向性などをテーマに取り上げた。これは病床削減や急性期病院の在院日数削減の背景を理解していない場合に、個々の職員の自己中心的な意見や不満が生じる可能性があると考えたため

ある。集会の中では、全職員に医療経営の実情もしっかりと伝えた。基準未達だったことから診療報酬の5%減算を受け、療養病棟療養環境加算1も算定不能となり、経営状況が悪化したこと、そこで短期目標として「区分2・3」50%超、中期目標として入院料1取得を掲げたこと、さらに次回の診療報酬改定を乗り切れば病院機能を維持できず、施設転換を余儀なくされるおそれがあることも、役職や職歴に関係なく、みんなで共有したのである。

その後も毎月の月例会集会で進捗状況を伝え、目標に向かって歩み続けた。すると、2017年3月には「区分2・3」割合が50%を超え、入院料2および療養病棟療養環境加算1の算定が可能となった。ただ、実情に満足してしまつては、一層の成長は見込めない。次回改定への備えとして「区分2・3」60%を暫定目標とし、2017年6月以降は今後入院料1への一本化が予測される状況を踏まえ、最終目標を「区分2・3」80%に定め、段階的に病棟単位で入院料1を算定する体制に移行した。

その後も職員との危機感の共有を継続した結果、全体として「区分2・3」の割合は上昇傾向を示した。だが、この段階では、この先に待ち受ける厳しい試験の全貌を知る由もなかったのである。

（第3回につづく）

アメニティ レンタルの ご案内

24時間ご利用可能なので安心
清潔な院内・施設内環境を保てます（院内感染の防止）
看護・介護職員さま、事務職員さまの業務軽減（人員不足の解消など）
患者さまと来院された方とを区別できます（防犯上の管理）
緊急入院や災害時にも利用可能です



入院も退院も、 手間いらず。

安心しておまかせいただける理由

1,403施設 約20万床の採用実績

Pマーク取得という信頼性

ISO取得という信用性

導入事例の見学も可能

アフターサポートも万全

株式会社アメニティ
0120-859-957

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

営業所

旭川・札幌・帯広・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・郡山・高崎・水戸・千葉・さいたま・横浜・新潟・長野・富山・金沢・静岡・浜松・名古屋・新大阪・京都・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島

<https://www.amenity-ss.co.jp/>

「アメニティセット」および「アメニティサポートシステム」は株式会社アメニティの登録商標です。



福井県坂井市丸岡町

いもと耳鼻咽喉科クリニック

耳鼻咽喉科・アレルギー科



意元 義政 院長

【略歴】

2003年 福井医科大学卒業
2003年 福井医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 入局
2006年 公立丹南病院 耳鼻咽喉科 医長
2010年 筑波大学 特別研究生
2012年 福井大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 助教
2015年 アメリカ・ノースウェスタン大学 客員研究員
2024年 福井大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 講師
2025年 いもと耳鼻咽喉科クリニック 開業

臨床と研究の両輪で育んだ
知識・技術を地域医療で発揮



年齢や障がいに関係なく
安心できるクリニック

医師として耳鼻咽喉科一筋。シカゴのノースウェスタン大学や筑波大学などでも研究に励み、日本鼻科学会賞など数々の賞にも輝いた。一方で、福井大学医学部附属病院など県内の基幹病院で臨床の現場にも数多く立ってきた。そんな意元義政医師がこれまで研鑽してきた専門知識・技術を、地域医療の最前線で発揮しようと今年9月に開院したのが、「いもと耳鼻咽喉科クリニック」だ。

壁紙やソファの深い青のシックな雰囲気と、床や受付カウンターの木の温もりが調和し、クリニックに入ると、そこには落ち着いた雰囲気を感じる。「明るく、丁寧な対応を徹底しています。小さなお子さんも、高齢者の皆さんも、精神などに障がいのある方も、年齢や身体の状態に関係なく、安心して来院できるクリニックを目指しています」と語る意元院長。スムーズな診療を提供するためにクリニックは予約優先で、初めての来院に不安のある方などは診察時間をゆとりゆかに確保したり、受診前に見学したりすることもできる。さら

に、シカゴでの研究員時代に身につけたコミュニケーション力に加え、海外の学会にも数多く参加した経験をベースに、「もちろん、海外の方もWelcomeです」と、優しい笑顔を浮かべる。

隠れた病気を見逃さない――。初診時には耳・鼻・のどを一通りチェックするのも、クリニックの特色だ。「耳鼻咽喉科の領域全体を診ることを、勤務医のころから心がけています。来院していただいた機会を生かし、少しでも早期発見できればとの思いからです」。意元院長はこう話し、実際に耳の不調で訪れた患者さんを診察したところ、甲状腺がんを見つけ、基幹病院につなげるなど、効果が上がっているという。

また、日本アレルギー学会専門医としてアレルギーの診療にも力を注ぐ。その一環として、ドロップスクリーンを採り入れる。指先から採取した1滴の血液から41項目のアレルゲンを調べることで、痛みも少ないため、小さな子ども

早期発見につなげるため、
初診時は耳・鼻・のどを診察

もの検査にも適している。このほ



かにも、発声・飲み込みの指導や睡眠時無呼吸症候群の対処など、多岐にわたる診療にあたっている。

「以前、ここには別の耳鼻咽喉科の医院があり、その院長先生には大変お世話になっていました。ところが、2年ほど前に急死され、閉院したのです。私自身、開業は意識していなかったのですが、しばらくして跡地を訪れる機会があり、そのとき、亡くなられた先生に背中を押された気がして独立を決めました」と語る意元院長。同じ場所ですでに灯りをともした耳鼻咽喉科クリニックを舞台に、地域住民の健康と真摯に向き合い続けている。

健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医薬経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
TEL:076-239-0625
E-mail: solution@jp-finese.com



医薬品卸売業

Finese 株式会社 ファイネス

[本社／金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所

学産プロジェクト presents セミナー開催のご報告

NPO 法人学産プロジェクトは「医療」「企業」「地域」をつなぐことを目的とし、日々活動しております。普段、病院の先生方と交流する機会が少ないという企業様からのお声をいただき、セミナー・交流会をこれまで3回開催いたしました。

第1回 ISHIN 発刊 100 号記念セミナー・交流会

開催日時：2024 年 8 月 28 日（水） 18:00 ～ 20:30

開催場所：Node（金沢市問屋町 1 丁目 27 番 1）

講師：金子 周一 氏（金沢大学 医薬保健学総合研究科 情報医学開発講座 特任教授）

講演テーマ：医療 DX のこれから

参加企業様：医療法人社団 博仁会 小池病院、医療法人社団 東野会 東野病院、株式会社スギ薬局、株式会社石川コンピュータ・センター、株式会社 DCP ソリューション、協同組合 アドビジネスセンター、スギメディカル株式会社、北陸総合警備保障株式会社、セントラルメディカル株式会社、プロメディカル株式会社、株式会社ファイネス、株式会社北國銀行、株式会社ミタス、ディレクト株式会社、ナレッジメディカル株式会社、増江会計、丸文通商株式会社、ワールドワイド株式会社（五十音順）



第2回 セミナー・交流会

開催日時：2025 年 1 月 30 日（木） 18:00 ～ 20:30

開催場所：Node（金沢市問屋町 1 丁目 27 番 1）

講師：稲木 紀幸 氏（金沢大学 医薬保健研究域医学系 消化管外科学／乳腺外科学 教授）

講演テーマ：医療機器開発と産学連携

参加企業様：医療法人社団 博仁会 小池病院、医療法人社団 東野会 東野病院、エア・ウォーター・リンク株式会社、株式会社クオンヘルスケア、株式会社 DCP ソリューション、株式会社ナカテック、株式会社ひかりファーマ、株式会社ファイネス、株式会社北國銀行、株式会社ミタス、株式会社 Radix、協同組合 アドビジネスセンター、スギメディカル株式会社、セントラルメディカル株式会社、ダイワ通信株式会社、プロメディカル株式会社、北陸総合警備保障株式会社、増江会計、丸文通商株式会社、明祥株式会社、ワールドワイド株式会社（五十音順）



第3回 セミナー・交流会

開催日時：2025 年 9 月 30 日（火） 18:00 ～ 20:30

開催場所：Node（金沢市問屋町 1 丁目 27 番 1）

講師：藤枝 重治 氏（福井大学 医学部附属病院 病院長）

講演テーマ：福井大学医学部附属病院のこれから

参加企業様：医療法人社団 博仁会 小池病院、医療法人社団 東野会 東野病院、株式会社アミニティ、株式会社永和システムマネジメント、株式会社スギ薬局、株式会社竹中工務店、株式会社 DCP ソリューション、株式会社ひかりファーマ、株式会社ファイネス、株式会社北國銀行、株式会社ミタス、協同組合 アドビジネスセンター、セントラルメディカル株式会社、プロメディカル株式会社、北陸総合警備保障株式会社、丸文通商株式会社、明祥株式会社（五十音順）



ご参加いただいた企業・病院様からは「講演はわかりやすく医療への知識が深まった」「普段なかなか聞けない貴重な話を聞くことができてよかった」「人脈を広げることができた」などのご意見がございました。今後も NPO 法人学産プロジェクトはセミナー・交流会を定期的に開催していきたいと考えております。



DLT 木造仮設住宅（珠洲） 設計：坂茂建築設計 施工：株式会社 家元

北陸の暮らしに寄り添う家づくり 地域と共に歩む住宅会社です。

私たち株式会社家元は北陸を中心に、

地域の風土と家族の暮らしに根ざした住宅をつくり続けてきました。

令和6年能登半島地震では、被災された方々への仮設住宅提供、応急復旧支援、

物資の集積及び現地支援など多角的な復興活動を展開。

地域再建の力になるため、新たに輪島市堀町にも事務所を開設しました。

これからの暮らしを、地域の皆さまと共に築いてまいります。



GOOD DESIGN
AWARD 2025

グッドデザイン賞 2025「大賞」

内閣総理大臣賞受賞



I E M O T O

美しい人になる
家元の家。

変わりゆく医療を あなたとともに。

取材にご協力していただきました医療者の方々、ご協賛していただきました企業様に心より感謝申し上げます。

また、医療情報誌「ISHIN」では私たちの活動にご賛同いただけるスポンサーを募っています。

Special Thanks

【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局

スギメディカル株式会社

株式会社 DCP ソリューション

株式会社 石川コンピュータ・センター

みづほ工業株式会社

株式会社 ファイネス

ディレクト株式会社

株式会社 アメニティ

株式会社 クオンヘルスケア

丸文通商株式会社

株式会社浦建築研究所

株式会社 福光屋

増江会計

株式会社 家元

【協賛企業】

料亭 つば甚

株式会社 富士タクシー

株式会社 キョー・エイ、株式会社 兼六、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、

有限会社 ソフト AZ、司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス

ISHIN



『通いたくなる場所』をデザインする

DIRECT 株式会社 /DIRECT 建築設計事務所



医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

金沢大学附属病院	石川県済生会金沢病院	医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
金沢医科大学病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院	医療法人社団博友会 金沢西病院
石川県立中央病院	金沢聖霊総合病院	医療法人社団藤聖会
金沢市立病院	金沢赤十字病院	金沢メディカルステーション ヴィーク
石川県立こころの病院	独立行政法人国立病院機構 医王病院	国家公務員共済組合連合会 北陸病院
加賀市医療センター	独立行政法人国立病院機構 石川病院	小松ソフィア病院
公立河北中央病院	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
公立穴水総合病院	独立行政法人国立病院機構 七尾病院	社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
公立宇出津総合病院	社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター	医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
公立つるぎ病院	医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
公立能登総合病院	医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院	特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
公立羽咋病院	医療法人社団浅ノ川	特定医療法人社団勝木会
公立松任石川中央病院	心臓血管センター金沢循環器病院	やわたメディカルセンター
国民健康保険 小松市民病院	医療法人社団浅ノ川 千木病院	公益社団法人 石川勤労者医療協会
市立輪島病院	医療法人社団光仁会 木島病院	城北病院
珠洲市総合病院	医療法人社団慈豊会 久藤総合病院	医療法人社団博仁会 小池病院
町立富来病院	医療法人社団 下崎整形外科医院	
能美市立病院	医療法人社団橋会 整形外科米澤病院	

富山県

富山大学附属病院
富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
あさひ総合病院
射水市民病院
かみいち総合病院
黒部市民病院
公立南砺中央病院
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
高岡市民病院
市立砺波総合病院
南砺市民病院
公立学校共済組合 北陸中央病院
独立行政法人国立病院機構 富山病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院
独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院
富山県済生会高岡病院
富山県済生会富山病院
富山赤十字病院
医療法人財団恵仁会 藤木病院
医療法人社団秋桜 丸川病院
医療法人社団尽誠会 野村病院
医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
医療法人財団五省会 西能病院
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院

福井県

福井大学医学部附属病院
福井県立病院
市立敦賀病院
独立行政法人国立病院機構 あわら病院
独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
福井県済生会病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院
福井赤十字病院
医療法人福井心臓血管センター
福井循環器病院
医療法人厚生会 福井厚生病院





私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

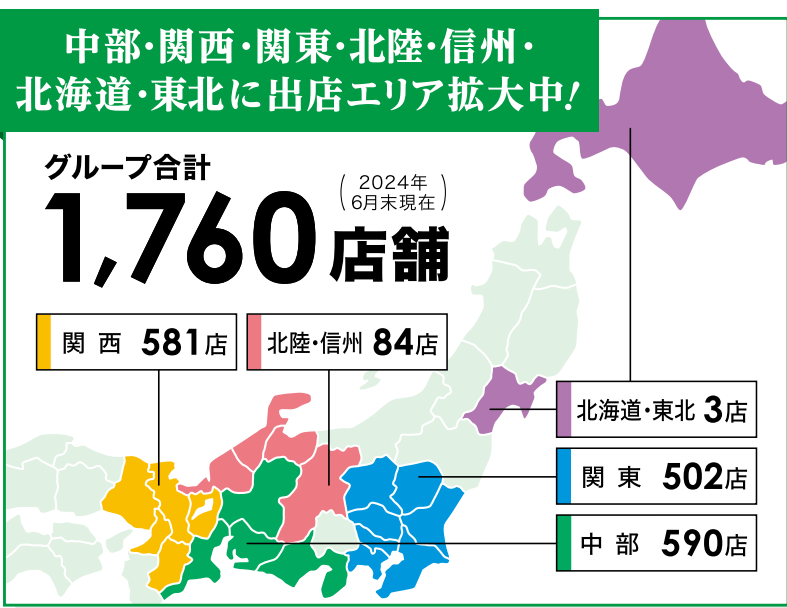
超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。



血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします



初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します



■ 全社売上高 (年間計)	7,444.8 億円	前期比 +11.5%
■ 調剤売上高 (年間計)	1,587.8 億円	前期比 +11.5%
■ 処方箋枚数 (年間計)	1,475.9 万枚	前期比 +14.3%
■ 訪問調剤対応店舗数 (年間計)	601 店舗	前期比 +6.4%
■ 訪問調剤患者数 (年間計)	189,109 名	前期比 +7.4%

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索